

魔神の呪

(大正六年寮歌)

佐藤惣之助君 作歌

植村泰二君 作曲

一

魔神まじんの呪のろひアルペンの
白雪はくせつ永久とほに清きよからず
見よ永劫えいこくと誓ちかひけん
平和へいの春はるは短みじくて
吹く凋落てうらくの秋風あきかぜに
正義せいぎの光影ひかりかげくらし

二

されど儼然げんぜん東洋とうやうに
その義ぎと俠けふを胸むねにして
燦さんたる北斗ほくと北陸ほくろくの
強きやうと仰あふがれ誇こりつつ
自治じちを精神いのちの我窠わがれうは
映華はえある歴史れきし十二年じふにねん

三

嗚呼ああ北海ほくかいの荒吹雪あらふぶき
白箭はくせん膚はだを撃つくも
胸むねの狂瀾きやうらん青春せいしゆんの
血潮ちしほに如何いかで比ひすべきぞ
力ちからの緒琴を高鳴ごとかりて
紅くれなゐ燃もゆる悶もだえあり

四

残陽ざんやう西にしに茜あかねして
今日けふも暮くれ行く手稲山ていねやま
雲くもの五彩ごさいを眺ながめては
思おもひは遠へうく渺茫ぼうの
彼の海かを越こえ山やまを越こえ
雄図ゆうと千里せんりぞ駈はしりゆく

五

平和へいの流れ豊平とよひらの
狭霧さぎり罩こめたる朝あさぼらけ
東とう指さして流れ行く
淙々そうそうの音ねを我聴われきけ
瀬々せせの河波かはなみ声こえあげて
唄うたふ「自由じゆう」の二字にじの曲きよく

六

今宵こよひ榆影ゆえいに団欒まじして
月影つきかげに酌しやくむ自治じちの宴えん
廻めぐる盃さかづき夜よも更ふけて
北斗ほくと傾かたく玻璃はりの窓まど
いざ吾わが友ともよ熟睡うまひせむ
明日あすは人生じんせいの旅たびなれば